

山本 アグリ JOURNAL

2025年11月号



山本商事株式会社

本 社：会津若松市インター西 29 番地

〒965-0059 TEL (0242) 24-4561 (代) FAX (0242) 25-0956

営業所：郡山市喜久田町卸一丁目 14 番地1

〒963-8681 TEL (024) 959-6631 (代) FAX (024) 959-6634

No.307

令和7肥料年度 春肥価格

JA全農は令和7肥料年度・春肥価格(11月～5月)を発表しました。主要品目の価格変動は次の通り、輸入原料の国際市況上昇により、春肥は値上げとなりました。

分類	品 目	成分 (%)	前期比 (秋肥対比)
窒素質	尿素（輸入・大粒）	46	+3.6%
	尿素（国産・細粒）	46	▲4.1%
	硫安（粉）	21	▲2.3%
	石灰窒素	21	±0.0%
りん酸質	過石	17	±0.0%
	重焼磷	35	▲0.4%
加里質	塩化加里	60	+8.6%
	硫酸加里	50	+4.8%
複合肥料	高度化成（基準）	15-15-15	+4.3%

※価格変動率は全農の県JA・経済連向け供給価格ベースであり、JA単協・農家向け供給価格の変動率とは一致しません。変動率は令和7肥秋肥（令和7年6月～令和7年10月）価格対比。
それぞれの原材料の交渉時の状況は下記の通りです。

① 原油・ナフサ

原油市況は、サウジアラビアの増産、OPECプラスの自主減産の縮小から、一時 60 ドルを下回る水準まで下落しましたが、イスラエルとiran の軍事衝突を受け、70 ドル台後半まで上昇、その後の停戦合意によって急落となりました。OPECプラスが11月の追加増産を決定したことにより、原油価格は現在 60 ドル前半を推移しております。国産ナフサ価格は、原油価格の軟化や世界経済の減速懸念により、前期より下落傾向です。

② 輸入尿素

6月のイランとイスラエル間の交戦により、イラン国内の情勢悪化、エジプトでもガス供給制限により尿素生産が停止したことから、国際市況は上昇しました。その後、停戦合意を受けて生産は再開されたものの、インドやブラジル等の旺盛な需要、ベトナムの尿素輸入量増などで需給は引き締まっており、引き続き国際市況は上昇しています。

③ リン安

中国の輸出規制により、インドは積極的にサウジアラビア、モロッコ、ヨルダンとロシアから輸入しています。低水準だった国内在庫を回復し、需要期に備え在庫をさらに増強する動きもあります。6月からの中国DAPの輸出解禁は、期間が6~9月と短く各国から多くの問合せと交渉があること、東南アジア、米国、ブラジル等での需要も旺盛であることから国際市況は高騰しています。

④ リン鉱石

前期の秋肥（6~10月）と同様に工業用の需要が増加していること、中国では肥料向けの高品位な鉱石の確保が難しくなっていることから、依然として国際市況は高い水準で推移しています。

⑤ 加里

塩化加里はインド、米国、ブラジル、東南アジアの入札などの旺盛な需要があり、価格は高値に推移しています。大量消費国の持続的な需要に支えられ、価格は堅調に推移すると思われます。今後はロシア・ベラルーシの塩化加里の輸出量も回復しているため価格上昇を抑制する可能性もあります。

硫酸加里は原料である硫黄相場の急騰と、塩化加里が高値推移であることから国際市況は上昇しています。

⑥ 外国為替

8月は一時150円台の円安でしたが、米国の景気減速懸念の高まり、早期の金利引き下げと日米の金利差の縮小が意識されたため、足元では再び140円台に戻っています。

令和7年春肥価格の外国為替は1ドル=145円で見通されました。

⑦ 海上運賃

海上運賃市況は、中東情勢の悪化を受けて海上保険料の値上り、紅海を避けた南アフリカ喜望峰迂回ルートの継続、北南米の穀物輸送増加により、市況は上昇しています。

⑧ 有機原料

米国でのバイオディーゼルの混合率引き上げ計画により大豆油の需要が拡大し、大豆の需給はひっ迫しましたが、大豆粕は需給が緩むとの予想により国際市況は下がっています。菜種油粕は大豆粕相場と連動しているため値下げとなりました。皮粉は原産国の原皮発生量の落ち込みにより需給がひっ迫したため、相場水準も高値で推移しています。フェザーミールも需要が旺盛であることから、高値で推移しております。

弊社、令和7肥料年度春肥対応について

農水省は24年産水稻作付けについて高温耐性品種の面積を発表しました。前年より14%増えており、主食用米全体の16.4%を占めています。高温耐性品種に適した成分、従来品種は高温環境でも品質を維持および環境保全にも取り組んだ資材を、ラインナップからご提案させていただく所存です。